

令和6年度 第4回三次市地域公共交通会議 議事要旨

1. 開催概要

日 時：令和6年12月20（金）10時30分～11時30分

場 所：三次市役所本庁舎602・603会議室

出席者：

[会長] 三次市 副市長 細美 健

[委員]

※(web)はオンライン参加

三次市地域共創部 矢野 美由紀	三次市建設部 行政 直樹(代理)
備北交通株式会社 實兼 利光	十番交通有限会社 有木 好文
私鉄中国地方労働組合備北交通支部 長谷川 和宏	君田町 今本 豊
三次広域商工会 中宗 久之	中国運輸局広島運輸支局 金平 駿(web・代理)
広島県地域政策局公共交通政策課 大河内 亨(代理)	西日本旅客鉄道株式会社広島支社 岡崎 雅史(代理)
広島県警三次警察署 若宮 晋	広島経済大学経済学部 加藤 博和

2. 会議次第

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

路線バスの運行状況及び収支状況について

4 協議事項

令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について

5 その他

6 閉会

3. 議 事

1. 開 会

2. 会長あいさつ

3. 報告事項

<事務局より、報告事項「路線バスの運行状況及び収支状況について」を説明>

(会長)

ただいまの説明について、ご質問等あればお願いします。

(實兼委員)

表中の運行回数は365日で割ったものだが、平日、休日の回数の方が、路線の特性、通学なのか、そうではなく観光なのかがわかりやすい気がする。また、既に廃止した系統もあるため備考欄に注記した方が良い。

(事務局)

対象期間中に運行していた全系統を示しているため、現時点で廃止している系統も含んでいる。例えば、一番下の No. 33 作木線の、道の駅大和を起点とする系統は令和6年3月末をもって廃止している。廃止系統を表の中に盛り込むかどうかを含め検討させていただく。

(加藤委員)

備考欄に、通学や観光といった主な目的等、その系統の特色や役割が書いてあれば良い。系統の一覧だけでは路線の役割がわかりにくい。

備北交通の No. 26 の作木線では貨客混載をされているが、収入の中に貨物輸送も計上されているのか。貨客混載が少しでも路線の維持等に寄与しているかを知りたい。

交通計画策定時点よりも後で、黄色の部分の「経常収支率15%以上20%未満」の区分を設定されたと思う。その経緯がわかれば教えて欲しい。例えば10%で区切るような設定もできるし、実際に10%と設定されている他の自治体もある。

新型コロナウイルス感染症の影響を鑑みる、ということであるが、既に5類に移行して1年以上経過している。需要も回復してきているが、いつまで影響を考慮するのか。

また、地域公共交通計画の中には路線別系統別の収支状況が入っており、これは実態調査に基づいて案分されたりしている数字であるが、年によって値が変動するため、1年ではなく、例えば過去3年間の平均などの考え方も出来る。新しい計画を策定する際に平準化することも検討いただきたい。

現行の地域公共交通計画において輸送利用者数の目標が設定されている。そのため、今回の輸送人員の合計値が計画目標に対してどのような位置なのかも見る必要がある。

最後に No. 32 の川の駅三次線については、2.9%なので系統廃止を含めた路線の見直しに該当するが、

一方で JR 三江線の廃止代替交通の位置付けでもある。三江線の計画との兼ね合いもあるが、見直しのスケジュール等を教えて欲しい。

(實兼委員)

収入に、貨客混載については入っている。

(事務局)

備考欄の改善については前向きに取り組んでいきたい。

計画策定後に収支率 15%を区分した理由については把握していないが、ある程度の系統数で区切っている可能性もあり、10%刻みにするとより少ない所が強調される部分もあろう。

コロナ禍の影響については、中国運輸局で定期的に発行されている、コロナ前からの利用者の推移データがあり、路線バス等についてはコロナ前までに戻ってないという現状である。状況を踏まえながら、言葉を選んで説明させていただく。

また、過去3年間の平均については、来年度が交通計画の更新時期であるため検討したい。

川の駅三次線について、三江線の交通計画期間が来年度までとなっており、来年度中に改めて三江線代替交通に係る交通計画を策定する予定である。その中で、利用実態を踏まえた運行計画、運行内容、といった記述が出てくる可能性もあるが、計画にとらわれず、利用者が特に少ない時間帯もあり、出来るところから見直しを検討したい。地元との協議等々を含めて、慎重に進める内容である。

路線バスの利用者数の目標値 13 万 8580 に対する今期の輸送人員は、全て合計すると 10 万 6618 人となっている。当時の計画と対比すると、約 77%で、目標値に対して約 20%下回っている。

4. 協議事項

<事務局より、協議事項「令和6年度地域内フィーダー系統確保維持計画の事業評価について」を説明>

(会長)

ご質問等あればお願いしたい。

(加藤委員)

別添1の⑤の目標・効果発生状況について。中心部への通勤、通学、買い物等の移動支援を図ることが出来たということが多くの項目に書いてあるが、通院も入れた方が良いのではないかと。共通事項のところに、高齢者に近いケアマネージャーの話もあるため、通院を含めることで生活に必要な路線であるということがわかる。

研修会で周知を図ったということであるが、このケアマネージャーは何人ぐらいおられ、この研修会にどれぐらい出席されていたのか。また、ケアマネージャーが実際にこの研修会で聞かれて、利用者等に対してどういったアクションをされているのか、フォローの内容がわかれば教えて欲しい。

くるるんについて、沿線の保育園の子供たちがミュージアムに行かれるのは非常に喜ばしいことだが、帰りでも利用されたのか。沿線施設との連携の可能性が、くるるんに限らず他の路線、フィーダーの該当ではない路線でも有効な策として、利用促進に繋がるようであれば、取り組んでいただきたい。

⑥には、くるるんでの取組については書かれていないので、前向きに実施していく方向で考えても良いのではないかと。

⑥で、利用が少ない路線についてフリー乗降についての周知を図っていくということであるが、具体的な周知方法はどのように考えておられるのか。広報紙で周知されるのか、あるいは沿線地域の団体や行事等と連携して、実際にフリー乗降での利用を呼び掛けるような方法もあるかもしれない。方法を考えておられれば教えて欲しい。

(事務局)

⑤の目標・効果達成状況で移動先に通院が入っていない点について、当時フィーダー計画を策定した際に目標設定に通院がなかったため、ここにも記載していなかった。しかし、実際には使い方としてあるということで、くるるん以外にも「通院」という文言を追加することも併せてご承認いただきたい。

三次市内のケアマネージャーの総人数は把握していないが、ケアマネージャーが所属する居宅介護支援事業所は30弱である。今回の研修会の参加人数については、正確ではないが大体30名から40名近くいらっしやっただと記憶している。その後のケアマネージャーからのフォローアップについては、包括支援センターより、地域ケア会議にて改めて説明をしたいという話があり、説明資料として相乗りタクシーのチラシや同心円マップというのを作り、お渡しして、ケアマネージャーからその先に周知をしていただいている。同心円マップとは、相乗りタクシーは自宅からがバス停等から700m以上離れた方を対象にした事業であるが、700mと言われても分かりづらいため、これを地図に示したものである。

保育園の園児がくるるんで、もののけミュージアムに行った際の帰路について、行きと同様くるるんを利用していただいた。

⑥の事業の今後の改善点に、保育園での利用の記述がないという点については、保育課等関係部署と来年度にそういったことが可能かどうか協議した上で、可能であれば記述を追加したい。

フリー乗降の周知について、基本的には支所だより等を活用して周知したい。時刻表についても、紙媒体では、どこからどこまでフリー乗降区間かを示していない場合があるので、事業者と協力しながら、見え方等も改善していきたい。

(会長)

それでは別添1の⑤に追記するという案をもってご承認いただけるということによろしいかと。

(一同)

異議無し。

5. その他

6. 閉 会

以 上